

第6回西京区基本計画策定審議会 摘録

日時：平成22年12月14日（火）

午後3時～4時

場所：西京区役所 2階 大会議室

■1 開 会

板倉議長： 昨年7月の第1回審議会以来、1年半にわたって計画策定に取り組んできた本審議会も、本日でいよいよ最後となる。議事の円滑な進行について、御協力をよろしくお願ひしたい。

■2 報 告

【「第8回 西京・洛西住民円卓会議」の開催結果について】

事務局： 資料1「第8回 西京・洛西住民円卓会議」における意見等」に基づき説明

■3 議 題

【「西京区基本計画（案）」について】

事務局： 資料2-1「西京区基本計画（案）＜第2案＞」、資料2-2「西京区基本計画（案）新旧対照表」、資料2-3「今後のスケジュール（予定）」に基づき説明

板倉議長： ただ今説明いただいた計画案については、市役所の各局との調整や常用漢字の状況を踏まえ修正している。長い期間を経て作り上げてきた計画案も完成に近づいていると思うが、細かい点についての指摘でも構わないので御意見をいただきたい。

土江田委員： 現行計画の取組項目の数は185項目であるが、新計画ではいくつになるのか。

事務局： 202項目である。

川村委員： 4ページの「西京区の概要図」について、「洛西竹林公園」が2箇所記載されている。西側の記載については誤記ではないか。

事務局： 修正させていただきたい。

片山委員： 用語解説の文字が小さく読みづらいように思うので工夫していただきたい。

事務局： 御指摘の点について検討させていただきたい。

安枝委員： 9ページのNo.15の取組についてであるが、既に西京区内における具体的な場所があれば、用語解説欄などに記載するとより分かりやすくなるのではないかと。まちづくり活動の拠点という新たな施設を整備してほしいという要望も多い中で、既存施設を改修してまちづくりに活用することは意義深いと思うので、先例があれば記載すべきであると思う。

10ページのNo.18に、「まちづくりリーダー」という記載があるが、具体的な制度に基づき「まちづくりリーダー」という役職があるのか、それとも抽象的な意味で書かれているのか。具体的な制度に基づくものであれば、用語解説が必要ではないか。

事務局： まちづくり活動の拠点としての活用については、実際の事例があるか確認のうえ記載について検討させていただきたい。「まちづくりリーダー」については、昨年度から区役所では、次世代の地域の担い手づくりのため、「まちづくりリーダー塾」という事業を実施しているが、用語解説の記載については検討させていただきたい。

板倉議長： 皆さんの御協力の下、長期間の審議を経て、ここまで計画を作り上げることができた。本日の計画案を新たな西京区基本計画として策定を進めていくこととしたい。細かい点についての修正や調整などについては、副議長と議長に一任していただきたい。承認していただけるようなら拍手をいただきたい。

各委員： （拍手により承認）

板倉議長： 承認いただきお礼申し上げます。また、長期間にわたり熱心に御審議いただいたことについてもお礼申し上げます。このようにお集まりいただくのも本日が最後となるので、各委員から一言ずつ感想などをいただきたい。

山本委員： 事務局には、きめ細かく調べていただくとともに、様々な意見をくみ入れていただき、お礼申し上げます。計画に記載されている202の取組項目は、西京区のこれからの10年間を見据える大切な指針になると思う。10年の間には時代の移り変わりもあると思うので、途中での修正も含めて、柔軟性を持って計画を推進していきたい。一つだけ言わせてもらえるなら、可能な範囲で、見る人が分かりやすい言葉を用いていただければ有り難い。年配の方でも若い方でも、すっと入り込めるよう、辞書がなくても理解しやすい文面、言葉まわしをお願いしたい。

山名委員： 審議会に参画し、色んなことを勉強させていただいた。10年先も残していかなければならないものはしっかりと残す一方で、新しいものを取り入れていくことも大切である。人が住まないまちは寂れていく。人が住みたくなる西京区にしていきたいと思う。

安枝委員： 私自身、洛西ニュータウンや桂坂など西京区の中でも比較的歴史が浅く、新しく開発された地域で活動している。区内には50年以上の歴史を持つ地域もあり、歴史の長さが異なる地域がある中で計画を1つにまとめるのは大変であったと思う。

洛西地域では、単独の学区だけでは解決できない問題に、洛西ニュータウン全体で取り組んでいる。しかし、最近は洛西ニュータウン全体でも解決できない問題も発生してきている。そういった問題に対しては区全体で取り組んでいこうと考えている。今回、この会議に参画させていただき、古いまちも新しいまちも、区全体という意味で連携することができるのではというヒントを得るなど、たくさん勉強できた。今後、実践の中で還元していきたいと思う。

藤本委員： 現行計画の取組については全て着手済みで100点満点となっている。新たな計画についても100点満点を望みたいが、その都度見直しも必要である。今後10年の間に時代は大きく変化すると思うので、私たちが作った計画ではあるが、積極的に変えていく勇氣も必要であると思う。時代時代に応じ、区民と専門家、そして行政が一緒になって計画を推進するというところに力を入れてほしい。

富阪委員： 3年間にわたり自治連合会長を務めさせていただいており、また、洛西住民円卓会議の座長も務めさせていただきながら、諸問題の解決に取り組んできた。そのうち2年間、今回の計画の作成に力を注ぐことができたと思っている。

大原野は歴史のある地域で、昔ながらのまちが形成されている。そのようなことも理解していただきながら案を出していただき、有り難く思っている。

今後10年間で大原野地域、そして西京区が良くなることを切に願うとともに、皆さんの御協力をお願いしたい。

土江田委員： 京都市基本計画と並行して各区で基本計画が策定されているが、今回作成した新たな西京区基本計画は、10年後に良い計画であったと言ってもらえる、自信を持ってやっていける計画になっていると思っている。今後、検討や修正を重ね、具体的に計画が推進されることを願う。

水口担当区長： 住民円卓会議については21年の2月から約2年、そして、審議会については21年7月から1年半にわたりお世話になり、お礼申し上げます。

計画案には高齢化率のグラフが記載されているが、西京区の高齢化率は10年前には12.5%であったものが今年遂に20%台になった。私が着任した4年前、老人クラブ連合会の会長から、西京区の基本計画には高齢者についての記載がないという指摘を受けたことを思い出すが、時代は変わってきている。

山本委員や藤本委員の言葉にもあったように、10年間は長い期間であるため、毎年作成する区の運営方針にも反映をさせながら、計画を推進していきたい。

☆印の付いた取組が大変多くなっており、みんなでまちづくりを進めていくという意気込みを感じることができる。計画推進に当たっても、是非お力を賜りますようよろしくお願いする。

古川区長： 以前、区の基本計画は区民の皆様自身の手によって作るものであるとお話させていただいたと思うが、熱心に御審議を重ねていただいた結果、区民の皆様の思いがいっぱい詰まった計画になったのではないかと感じている。西京区民の皆様の力は本当にすごいと思っている。改めてお礼申し上げます。

小石委員： 西京住民円卓会議の座長、そして審議会委員を務めさせていただき、大変良い勉強になった。これからの10年間に向け、自分なりに色々と考えなければならぬと思った。

西京らしい、西京カラーのいっぱい詰まった素晴らしい計画になったと思っている。

川村委員： 西京区に住んで30数年になるが、最近やっと地域の方と挨拶ができるような土壌ができてきた。

今回の計画策定に携わる中で、やはり引がかかるのは地下鉄の延伸についてである。地下鉄ができれば次の展開も期待できると思っていた。決して地下鉄の延伸について忘れるわけではないが、現在の社会情勢の中で、それに代わるべき交通手段としてバス交通の充実などについて記載されるようになった。

西京区の環境、自然を守り、子々孫々に伝えていかなければならない。計画を推進することと同時に、地域の中で見守っていききたいと思う。

片山委員： 本審議会では社会福祉協議会という立場で皆さんと接し、また、ニュータウンでは「一地域住民」として接することになった。それぞれの立場で色々なことを見ることができ、大変勉強になった。

区の色んな刊行物にも目が行くようになった。この審議会に参加したおかげであり、感謝申し上げたい。せっかく良い計画ができるわけだから、区民と行政が手を携えて様々な取組を進めていく必要がある。今後どのように進めていくべきなのか、刊行物などをじっくり見させていただくとともに、話をするような機会を設けていただければ有り難い。

約2年間、皆様と議論させていただいた時間は、私にとって大変価値のある時間であったと感じている。

大島委員： 新たな計画がまとまった今、今後10年間、地域の皆さんをいかに巻き込んでまちづくり活動を進めていくかということに、大きな期待を膨らませている。

井 上： 私が西京塾の推進部会委員として活動していた際、板倉議長、川村委員、大島委員に大変恵津子委員 お世話になった。向学心に燃えるとともに、一生懸命活動したことを覚えている。現在まで活動が続いていることに敬意を表する。

私自身、住民円卓会議には参加していないが、資料を見ると様々な意見が出されており、嬉しく思っている。

計画には夢が膨らむことが書かれており、少しでも実現すれば嬉しいと思う。約20年前、何かの会議で、地下鉄はいつできるのかと質問した際、平成17年には完成するという回答であったが、現在も地下鉄は完成しておらず残念である。川村委員の発言にもあったが、地下鉄が完成すれば、西京区はもっともっと発展するのではないかと思う。交通の利便性が向上するよう、みんなで力を出していければよいと思う。

井 上： 民生委員を長年務めているが、子育て支援について気になることがある。毎月1回、乳幼児愛子委員 児とその母親を対象に「子育て休憩室」という活動を福西会館で行っている。「支援します」や「目指します」といった言葉は行政の言葉であり、実際に活動している者からすれば現実はずっと厳しい。

児童虐待については早期発見が重要だと言われるが、行政に持ち込んでも解決に時間がかかっている。

高齢者福祉についても、この夏は見回り活動などに取り組み、高齢者との対話に努めてきたが、高齢者が安心して暮らせるまちづくりといったことについて一言触れてもらいたかった。

この計画が実現した暁には、自分の孫も平和な西京区に住むことができるのではないかと思っているので、実現に向かって推進していただくことを期待している。

栗津委員： このような会議に参加することができ、非常に勉強になった。各委員や事務局にお世話になり、お礼申し上げます。

10年後も住みよい西京区であり続けられるよう、私自身も何かできることから頑張っていきたい。これからもよろしくお願ひしたい。

荒木委員： この審議会の委員に加わらせていただいたこと自体、非常に光栄なことであり、それだけに責任を感じている。自分の生まれ育った西京区のまちを10年後にどうすべきか、ということを感じながら委員として活動してきた。計画が策定された後、区民一人一人から理解が得られるよう、また、期待に応えられるよう、☆印の取組については、区民の先頭に立って、積極的かつ果敢に取り組んでいきたいと決意した次第である。

板倉議長： 私自身は左京区在住であるが、以前から「環境市民」というNGOの理事を務めており、また、大原野の方で土地を借りてエコファームに取り組んでいたこともある。

バードウォッチングをするなら西京区と言われるぐらい、西京区は自然が豊かである。アマサギという鳥が来るのも西京区だけで、松尾橋付近のバードウォッチングも盛んである。水生昆虫も豊富である。また、歴史も深く、遺跡がたくさんある。この辺りは秦氏の拠点となっており、文化はこちらの方が栄えていたのではないかと思う。

自然と歴史が豊かで、非常に良い場所である。私にとって第1の故郷は左京区で、第2の故郷はJICAから派遣されていたアフリカのナイジェリアであり、西京区は第3の故郷である。道を歩いていても知っている人によく会い、声を掛けてもらえる。引っ越すのであれば大原野だなと家族とも話している。

長い間議長を務めさせていただき、お礼申し上げます。再来年からは外国勤務の予定であるが、西京区では今後も活動していきたいと考えている。

西京区は、皆さんのまちづくりに取り組もうとする意欲を肌で感じられる良い地域である。私自身も、区民の皆さん、そして行政と共に計画の推進に取り組んでいかなければならないと思っている。

菊池副議長： この計画は本当に優秀なメンバーが作ったと思う。それがキャッチフレーズに表れていると思っている。これまで、説明が必要なキャッチフレーズは良くないと言ってきたが、この計画の「西山の緑かがやき 未来をひらく西京区」というキャッチフレーズは、他の地域に負けない素晴らしいキャッチフレーズであると思っている。

しかし、キャッチフレーズだけではなく内容も大切である。皆さんの真摯な議論の結果、内容についても申し分がなく、良い計画ができたと思っている。今後は、我々住民が行政と一緒に計画を推進していくことが肝心である。

私が平成14年に西京区自治連合会長に就任して以来、確実に人口は減少している。川村委員や井上恵津子委員から、また、住民円卓会議でも地下鉄について意見が出ている。昨年、市長が来られた際、西京区を代表して、「細かいことはよいが、何とか西京区に地下鉄を通してほしい。京都大学と国際日本文化研究センター、そして芸術大学と、こんな狭い中にこれだけのものがそろっている所があるか。世界的に考えても、西京区に地下鉄を通す意義がある。」と伝えた。市長には、にんまり笑い、軽くいなされてしまった。その後、京都堀川音楽高等学校が中京区へ移転し、芸術大学までも移転の話が持ち上がっている。更に人口が減っていく恐れがある。こういったことがあるので、地下鉄が必要だと言っている。

市長は、1日に4,000万円も赤字を出す地下鉄を延伸することは無理だと言う。今年の5月29日に地下鉄5万人増客キックオフイベントが行われたが、西京区のことについては触れられていない。京都市全体の計画の中でも、西京区への延伸について一言も書かれていない。

ほんの一行でよいので、「将来、地下鉄を西京区へ早期に延伸するためにも」というような記載がなければ、京都市全体で取り組んでいることにならないのではないかと。そういった点に強く不満を感じている。

行政も懸命にまちづくりに取り組んでいるのだから、我々区民も一緒になって頑張っていくことが肝心である。

10歳の子どもが20歳、そして、30歳になるということを考えた際に、本当にこれでいいのかということを考えながら、計画を推進していかなければならない。

■4 閉 会

菊池副議長： 皆さん方には、本日も含め、長期間にわたって大変熱心に御審議いただき、お礼申し上げます。

総力を挙げて取り組んでいただいた結果、西京区の個性と魅力がいっぱい詰まった、未来を展望できる、本当に素晴らしい計画ができたのではないかと。思っている。

本日をもって、新たな計画の審議は終了するが、今後、皆さん方の御協力をいただきながら、計画を着実に進めていかなければならない。

そのためには、これまで以上に地域と行政が連携を密に取り合い、また、区民一人一人が、西京区のまちづくりのために、主体的に行動することが大切であるとする。

我々区民が「西京区を良くしていきたい」、「西京区に住み続けたい」という強い思いを持ち、まちづくりに携わっていけば、必ずや計画を実現できると確信している。

皆さん方には、今後とも、より一層の御支援、御協力をお願いする。

古川区長： 板倉議長、菊池副議長をはじめ、委員の皆様には1年半の長期間にわたり御審議いただき、お礼申し上げます。今回が最後の審議会となるが、計画の策定に当たっては、住民円卓会議においてたくさんの意見をいただいた。また、アンケート調査やパブリック・コメントにおいても、区民の皆様からたくさんの意見をいただいた。

それらを委員の皆様にもまとめていただき、そして、皆様の英知を注いでいただいた結果、本当に素晴らしい最終案ができたと思っている。改めてお礼申し上げます。

来年4月からはこの計画がスタートすることになるが、計画を実行に移すことは、計画を策定するよりも大変なことであると思っている。

先程、「西山文化」創造区民会議において、現行計画の進捗状況について議論がされたところであるが、計画が策定された時と比較すると、驚くほどの進捗があったのではないかと考えている。10年後、西京区が驚くほど良い方向に変わり、発展したと言えるようになればよいと思っている。

皆様方には、これまで以上にお世話になることがたくさんあると思うが、御協力をよろしくお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。